

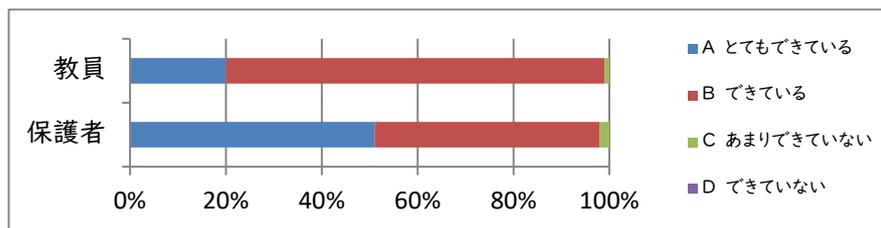
# 令和6年度 学校評価 アンケート集計結果

だて支援学校

回答数 教員67名 保護者104名

## I 教員、保護者のアンケート集計結果

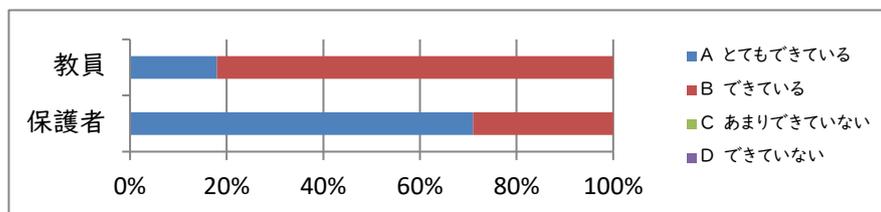
- 1 【教員】 学校経営・運営ビジョンを理解して、(学校目標や重点目標を意識して)教育活動を行っている。  
 【保護者】 学校は、学校経営・運営ビジョンについて(PTA総会やホームページ等で)わかりやすく伝えている。



### <分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。昨年度とほぼ変わらない数値となっている。教員は運営ビジョンを理解し、日々、意識しながら様々な教育活動を行っていくようにする。保護者には、紙媒体での配布とともにPTA総会や懇談等とおして、さらに分かりやすく伝えていきたい。

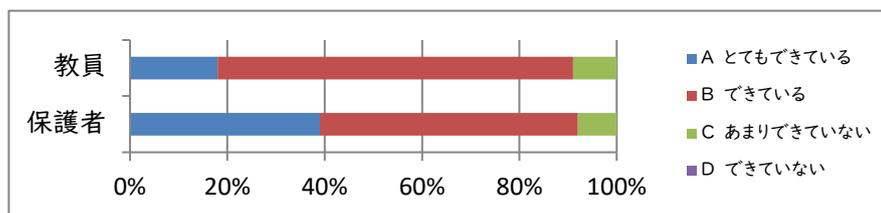
- 2 【教員】 児童生徒の教育的ニーズを明確にした、個別の教育支援計画の作成をすすめている。  
 【保護者】 学校は、5月の個別懇談で児童生徒の教育的ニーズを明確にした、個別の教育支援計画(新様式)の説明をしている。



### <分析>

教員、保護者とも全員がA、Bと回答している。また、保護者がA、Bと回答している割合が全項目の中で一番高い。このことから、保護者からは個別の教育支援計画について、一定の評価は得られたと考える。今後も懇談等で保護者との対話を続け、教育的ニーズを明確にした個別の教育支援計画を作成していきたい。

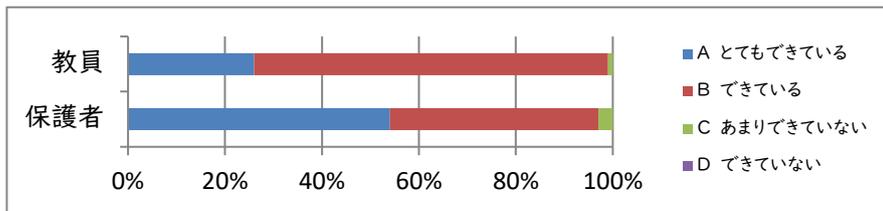
- 3 【教員】 ICTの効果的な活用のため、教員のニーズを把握して研修するとともに、活用の様子などについて情報を発信して共有を図っている。  
 【保護者】 学校は、タブレット端末やパソコンの活用の様子などについて情報発信(学級だより、ホームページ、noteなどに掲載)している。



### <分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。保護者がCと回答している割合が全項目の中で一番高い。教員から「活用状況の共有があまりされていなかった。」「自分の指導力の向上が必要。」の記述があった。高等部では全員がタブレット端末を使用できる環境になったことから、子どもたちにとって何ができるようになるかを考えて、授業実践をしていくことが必要である。それとともに、教員の研修会の設定も必須である。また、保護者からは「どんな授業を受けているかわからない。」との回答があり、まだまだ伝えきれていないことがわかる。授業の様子が保護者にわかるように、学級便りや懇談、ホームページ等で伝える工夫をしていきたい。

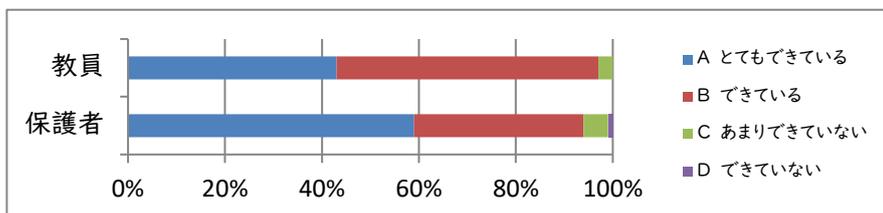
- 4【教員】 月1回の校内研修を通して、子どもが分かる授業を目指して授業研究を行っている。  
 【保護者】 学校は、校内研修を通して、子どもが分かる授業を目指して授業の工夫を行っている。



<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。しかし、教員、保護者ともAと回答している割合が昨年より増加している。昨年度に引き続き、グループごとに授業研究を行ってきたが、少しずつ、その成果が積み上がってきていると感じる。研修会の様子などをホームページに掲載したこともあり、保護者に多少なりとも実践の様子を伝えられたのではないかと考える。まだ、課題は山積みではあるが、日々、子どもが分かる授業を目指して授業研究を続けていきたい。

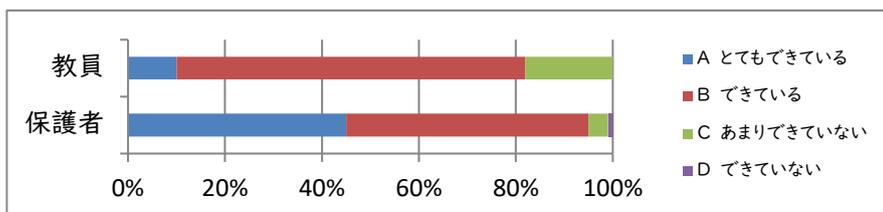
- 5【教員】 自分から元気なあいさつができるようにしている。  
 【保護者】 学校は、児童生徒が自分から元気なあいさつができるように指導している。



<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。特に教員は全質問項目の中でAと回答した割合が一番高い。教員からは「自分からあいさつしている児童生徒が少ない。」との回答があった。一方、保護者からは「教員があいさつをしない。」「元気なあいさつを、押しつけられているように感じる。」という回答があった。児童生徒の見本となるように教員が率先してあいさつをし、「いつでもどこでも誰にでも」できるように実践していくことが必要である。

- 6【教員】 性に関する指導を実態に応じて実施できるように情報提供や指導を行っている。  
 【保護者】 学校は、性に関する指導について情報提供(学級通信や連絡帳、保健だより等)や指導(養護教諭による授業や保健体育による授業)を行っている。

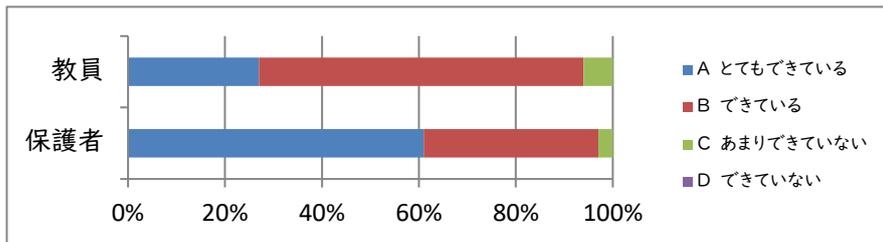


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。特に、教員は全質問項目の中でAと回答した割合が一番低く、Cと回答した割合が一番高い。教員から「養護教諭任せになっている。」「指導時間が足りない。」「保健体育だけではなく、ホームルームや道徳での指導も考える必要がある。」との回答がある。特に高等部の教員は、指導時間の足りなさをあげている。保護者からは「子どもの学習内容を知りたい。」との回答があった。学級通信や保健便り等で授業風景をお伝えしたが、まだまだ不足していたと思われるので、より迅速に情報を伝えられるようにしていきたい。また、養護教諭だけに頼らずに、外部講師の招聘も考えつつ、道徳やホームルームなども活用し、児童生徒の実態に応じて、計画的に取り組んでいきたい。

7【教 員】 進路に関する情報発信や進路学習の充実に努め、キャリア教育を推進している。

【保護者】 学校はキャリア教育を進めるために、進路に関する情報発信（進路研修会、進路だより、ホームページ等）や進路学習（先輩の話聞く会、進路ガイダンス等）を行っている。

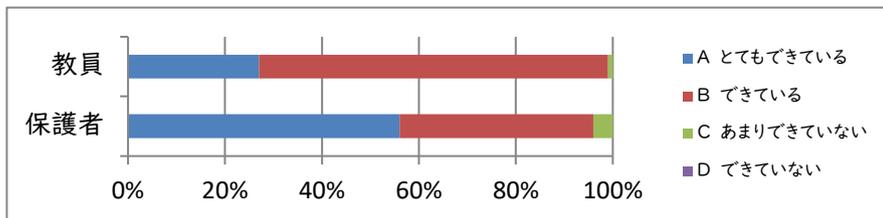


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。教員、保護者とも昨年に比べてAと回答した割合が増加している。進路だよりやホームページ等での情報発信が確実に保護者へ伝わり、それが評価に現れたのではないかと考える。キャリア教育は全学部で取り組む必要がある事をさらに意識して取り組んでいきたい。保護者からは、開催日時等について、より参加しやすい設定を望む意見があったので、今後、検討していきたい。

8【教 員】 学校と家庭・地域が連携して、児童生徒の教育活動への援助・充実に努めている。

【保護者】 学校は、保護者と協力して、事業・研修会等を実施している。

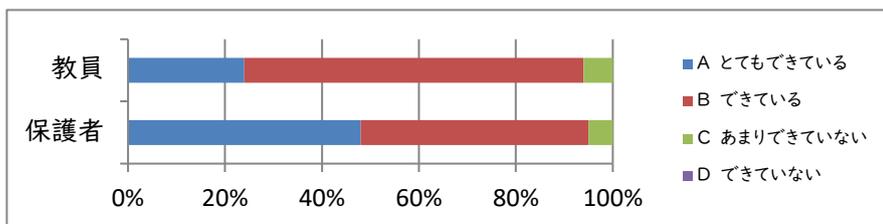


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。教材の購入や各種行事への補助等を頂き、充実した学習活動ができていることに感謝したい。保護者からは、アンケート項目7と同様に、各種事業や研修会等の日時の設定についての意見があり、関係部署と連携し、検討していきたい。

9【教 員】 地域における研修・相談支援の充実と関係機関等との連携に努めている。

【保護者】 学校は、地域の学校へ出かける支援や来校相談、関係機関等との支援会議や情報交換を行っている。

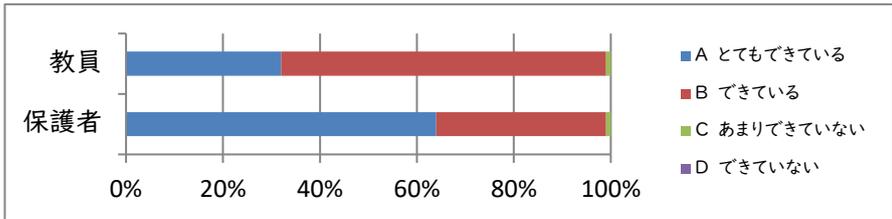


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。地域の学校や関係機関の研修会で講師をしたり、実際に地域の学校に行つての相談支援、学校へ来てもらったの相談支援や電話での相談支援等をしてきているが、詳細については伝えられないことも多く、保護者の「よくわからない。」という回答につながったと推測される。また、その支援の工夫を校内での実践にも生かしたいと思つてはいるが、なかなか取り組めていないことが教員のCの回答につながったと考えられる。保護者にわかる伝え方と校内での連携の方法について検討し、効果的な周知に向けて取り組んでいきたい。

10 【教 員】 防災教育に努め、児童生徒の生命と安全を守っている。

【保護者】 学校は、児童生徒の生命と安全を守るために防災教育（避難訓練、緊急時における引き渡し訓練、不審者対応訓練等）を実施している。

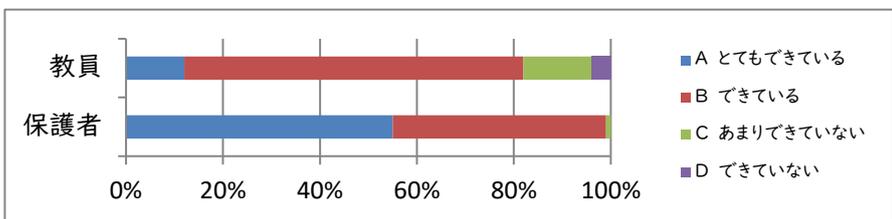


<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員、保護者がCと回答している。今年度の緊急時引き渡し訓練は、保護者からの協力を頂き、実際に引き渡しを伴う訓練を実施することができた。その結果、今後の課題も見えてきたので、より安全に引き渡すことができるように、さらに取り組んでいきたい。日頃から、防災教育について教員一人一人が考え、意識を高めていきたい。

11 【教 員】 教職員の働き方改革を推進している。

【保護者】 学校は、解錠・施錠時刻を定め、教職員がゆとりをもって児童生徒の教育にあたることができるようにしている。（夏季休業中における閉庁日の設置等）



<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員はC、D、保護者はCと回答している。夏季休業中における閉庁日の設置等については保護者の理解が得られていると考える。教員にとっては、ゆとりがなく、授業準備や会議に追われている様子が回答からうかがえる。何をどう精選していくか、見直し検討していきたい。

II 児童生徒のアンケート集計結果

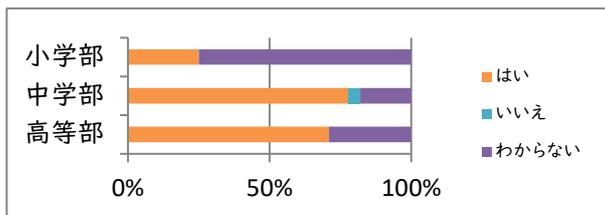
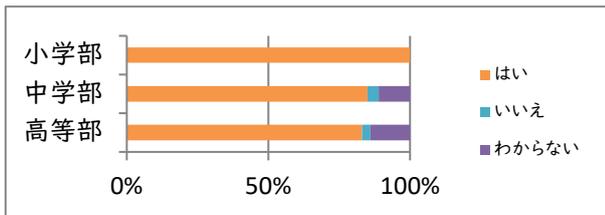
小学部:4名

中学部:27名

高等部:35名

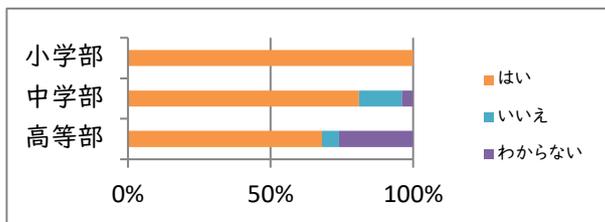
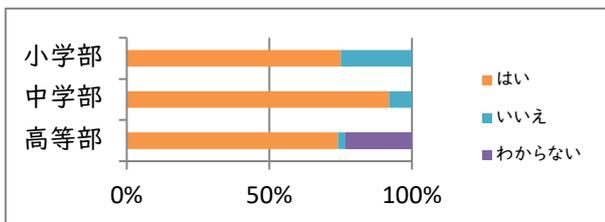
1 学校は楽しいですか。

2 通知票はわかりやすいですか。

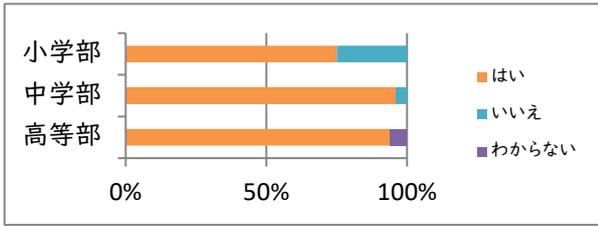


3 授業はわかりやすいですか。

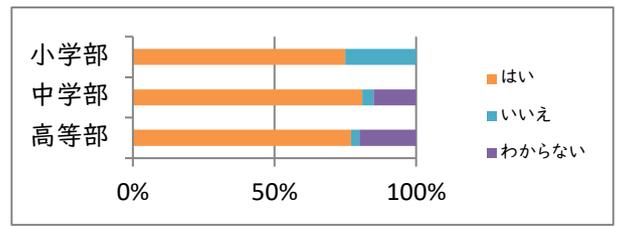
4 授業でわからないことは、先生に質問していますか。



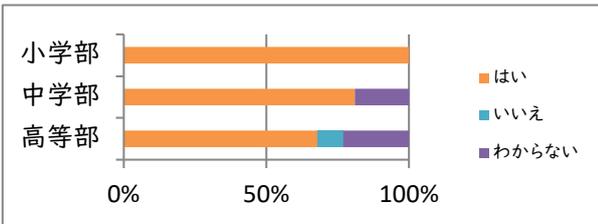
5 授業の中でパソコンやタブレットを使った学習をすることがありますか。



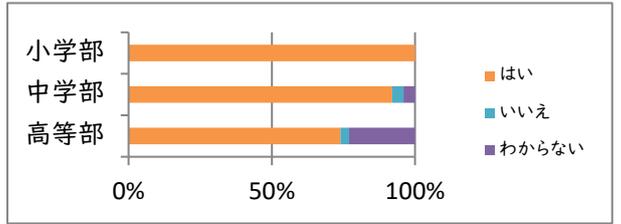
6 先生は、将来、やりたいことや進路について話をしたり、わかりやすく教えてくれたりしますか。



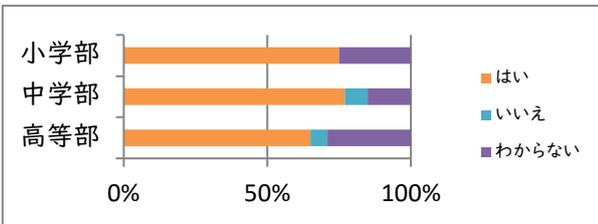
7 自分からあいさつをしていますか。



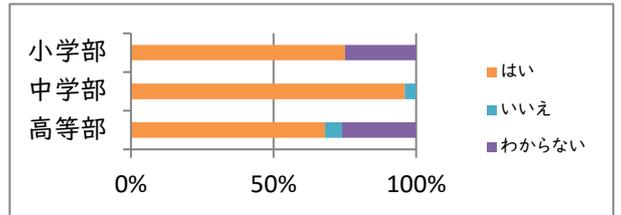
8 困ったときや、悩んだときに相談できる先生はいますか。



9 自分の思いや考えを話し合える友達はいますか。



10 避難訓練では先生の話聞き、安全に避難するにはどうしたらよいか、わかりましたか。



<分析>

○学校が楽しいと小学部の児童は全員答えている。楽しいと答えている中学部・高等部の生徒の割合も、昨年度より増加している。通知表が分かりやすいかの質問に「はい」と答えているのは小学部の児童は半分以下にとどまる。「わからない」と答えている児童が多いため、何がわからないのか、その検証が必要である。授業が分かりやすいかの質問には「はい」と回答している小学部の児童・高等部の生徒が昨年より少し減少している。しかし、わからないことを先生に質問しているかとの質問には小学部の児童は全員が「はい」と回答し、わからないまま終わらせていないことがうかがえる。中学部の生徒も「はい」と回答している割合が増加している。さらに、児童生徒が分かる授業づくりをしていきたい。

○パソコンやタブレット端末を使った授業が多いと回答している児童・生徒が全学部で半数を超え、昨年より増加している。環境整備が整ってきたことが考えられる。研修会等で教員の指導力の向上を図り、児童生徒の「分かる」を支えたい。○進路の学習については、昨年度は小学部の児童、中学部の生徒の半数以下が「はい」と回答していた。しかし、今年度は半数以上が「はい」と回答していた。教師も進路について学ぶことを意識して伝え、児童・生徒も様々な学習を積み上げてきた成果と考えられる。さらに、「キャリア・パスポート」などを活用しながら学校全体で、キャリア教育の充実を図ってきたい。

○あいさつについては、小学部の児童の全員が「はい」と回答している。中学部、高等部の生徒は「わからない」と回答している割合が昨年より増加している。保護者の意見にもあったが、元気だけにこだわるのではなく、その児童・生徒の方法であいさつができるように、あいさつの大切さを伝え続けるとともに、教師が手本となるように自ら実践していきたい。

○困ったときや悩んだときに相談できる教員がいるかについては、小学部の児童は全員、中学部の生徒は92%が「はい」と回答している。今まで以上に話しやすい環境づくりの整備、特に高等部は相談しやすい関係づくりを心掛けたい。また、話し合える友達についての質問では、全学部で、一部の児童・生徒が「いいえ・わからない」と回答している。特に高等部ではSNS関連の問題も含めて友達との関係づくりを支援していきたい。

○避難訓練については、全学部で、一部の児童・生徒が「いいえ・わからない」と回答している。事前・事後学習だけではなく、各教科等とも関連させて、より安全・安心な学校生活について学べるように工夫をしていきたい。

## 11 「どんな勉強をしたいか」「どんな学校にしたいか。」

### <分析>

どんな勉強をしたいかについては 小学部では体育、音楽、図画工作やゲームなどの回答があった。中学部では国語や体育をはじめ、幅広い教科の学習に対する回答があった。太鼓の外部講師を呼ぶことや校外学習に行きたい等の回答もあった。高等部ではより難易度の高い学習を希望する回答があった。部活動の種類についても触れていた。

どんな学校にしたいかについては、「学校の名前が面白い名前が書いてあったら楽しい」「穏やかで平和の学校」「けんかしない学校」みんなで協力し合う学校」「休み時間を長く」「楽しい」などの回答があった。

学校へたくさんの希望を持っている児童生徒のために、一人一人の教員が指導力向上と児童生徒が「わかる」授業づくりに取り組んでいきたい。

## III まとめ

ほとんどの項目で、教員、保護者の評価がほぼA、Bの回答であり、特に保護者のDの回答は昨年6項目から今年度は2項目に減少した。このことから、学校経営・運営ビジョンについては概ね達成されていると評価されたと思われる。さらに、わかりやすい学校経営・運営ビジョンの提示を検討していきたい。

教員の評価から、ICTの効果的な活用と発信、性に関する指導と情報提供、地域支援と校内支援の連携が課題と考えられる。外部講師による研修会や、校内での学習会などを計画し、全学部で組織的に取り組んでいきたい。

保護者の評価から、ICTの活用の様子、性に関する指導の情報提供、あいさつ指導、相談支援や関係機関との連携についての発信が課題と考えられる。また、保護者対象の各種行事や研修会等の日程等については検討をしていく必要がある。

より学校の活動を知ってもらうために、ホームページやnoteへの掲載、各種お便り・学級だよりの配付、日々の連絡帳や懇談での保護者との対話が必要だと思われる。

子どもたちの学校への思いに応えられるように、保護者、関係機関と連携しながら、児童・生徒を学びの中心に、取り組んでいきたい。